

**製品名: リン酸化網膜芽細胞腫 (S807) (4H3) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe05995**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG (リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有)。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:500
分子量	106kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RB1
別名	P105-RB; PP105; PP110; RB-1; RB1; Retinoblastoma-associated protein;
遺伝子 ID	5925.0
SwissProt ID	P06400
免疫原	ヒト Rb の Ser807 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

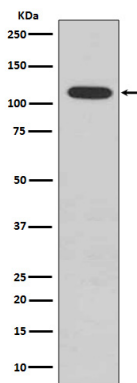
**背景**

網膜芽細胞腫 (RB) は、網膜由来の胎児性悪性腫瘍です。ほぼ常に幼児期に発症し、しばしば両眼性です。自然退縮 (「治癒」) する症例もあります。細胞周期の G1/S 期移行の重要な調節因子である腫瘍抑制因子です (PubMed:10499802)。低リン酸化型は E2F ファミリーの転写調節因子に結合し、E2F 応答性遺伝子の転写を阻害します (PubMed:10499802)。どちらも E2F の転写活性化ドメインを物理的に阻害し、転写を積極的に抑制するクロマチン修飾酵素をリクルートします (PubMed:10499802)。サイクリンおよび CDK 依存性の RB1 リン酸化は、E2F からの解離を誘導し、E2F 応答遺伝子の転写を活性化し、S 期への移行を誘導する (PubMed:10499802)。RB1 はまた、CDK3/サイクリン C によるリン酸化および活性化によって G0-G1 転移を促進する (PubMed:15084261)。ヒストンメチル化を安定化させることで、クロマチン全体の構造、特に構成的ヘテロクロマチンの構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与する。ヒストンメチルトランスフェラーゼ SUV39H1、KMT5B、および KMT5C をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こす。ヒストン H4 の Lys-20 トリメチル化を制御する。TAF1 の内因性キナーゼ活性を阻害する。SMARCA4/BRG1 は、ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 複合体を c-FOS プロモーターにリクルートすることにより、転写抑制を媒介する。静止期ニューロンでは、c-FOS プロモーターの転写は BRG1 依存的にリン酸化 RB1-HDAC1 リプレッサー複合体をリクルートすることで阻害される。カルシウム流入により、RB1 はカルシニューリンによって脱リン酸化され、リプレッサー複合体が放出される (相同性による)。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



K562 細胞溶解物中のリン酸化網膜芽細胞腫 (S807) 発現のウェスタン ブロット分析。